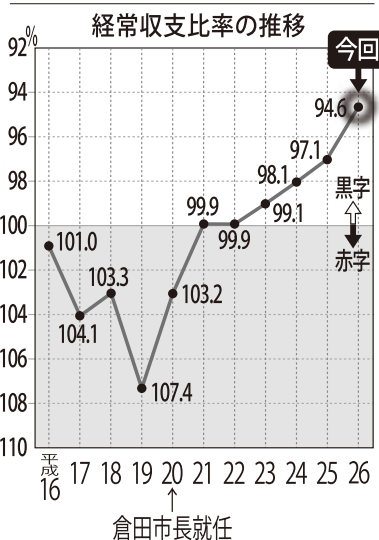
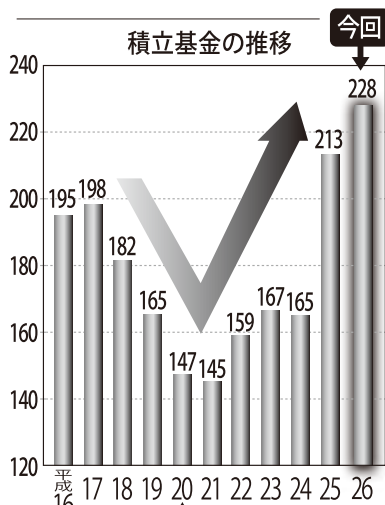


箕面市財政 V 字回復!

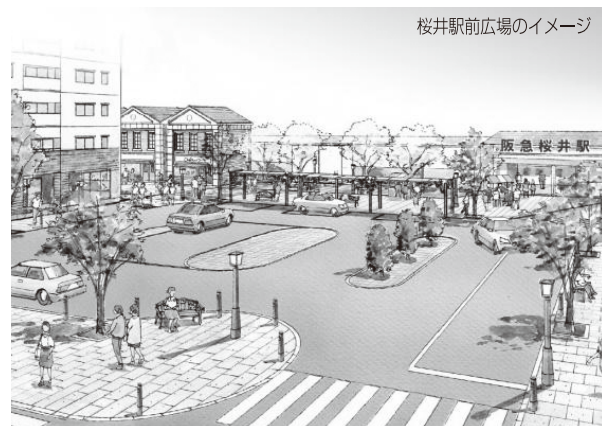
北大阪急行線延伸のような大事業に取り組むには、箕面市の財政が健全であることが絶対条件になりますが、倉田哲郎市長が就任以来取り組んだ行財政改革で箕面市の財政は劇的に改善しました。平成24年度決算で10年ぶりの

「完全黒字」を達成し、平成26年度予算では、基金残高(貯金)が平成20年度と比較して81億円増加し、逆に市債残高(借金)は5億円減少しています。



例えば……

- ①がん検診の無料化の継続 / 府内で唯一実施している無料がん検診(胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がん及び前立腺がん)を継続。
- ②小学校から英語教育を開始 / 平成27年度から全小の全学年で毎日の英語教育を実施することとし、平成26年度の2学期から試行カリキュラムを開始。
- ③桜井駅前地区の再整備 / 「歩いて暮らせるまちづくり」をコンセプトに、桜井駅前広場の一部について歩行者空間の設計に着手。平成27年度の完成をめざす。



- ④中央図書館のリニューアル / 親子連れの皆さんが他の来館者に気兼ねなく利用でき、より多くの皆さんがゆっくりと快適に過ごせる親しみやすい図書館となることをめざし、リニューアルを実施。
 - ⑤ペットボトルの全戸収集に向けたモデル試行 / ペットボトルの全戸収集を平成27年度から実施することとし、平成26年4月から一部地域でモデル収集を開始。
- ……などなど、倉田市長は、「変えるべきは断固として変え、伸ばすべきは思い切って伸ばす」という姿勢で、「安心・支えあい最優先」「子育てしやすい日本」「緑・住みやすさ最先端」の3本柱で、バランスの良い予算を編成しています。

●経常収支比率の着実な改善

家計にたとえると毎月の給料で生活がまかなえるかを示す経常収支比率は、倉田哲郎市長の就任前(平成20年度まで)は、収入で支出をまかなえない大赤字(100%超過)の状態が続いていましたが、倉田市長の就任後は6年連続で収支が改善し、連続して黒字を堅持し、V字回復を達成しています。

●北急以外にも積極投資!

これだけの行財政改革を推進しながらも、倉田哲郎市長は北大阪急行線の延伸に道筋をつけましたが、平成26年度予算では、それ以外にもたくさんの仕事を進めています。

◆編集室に寄せられた声から…ご紹介

"北急延伸"……?!

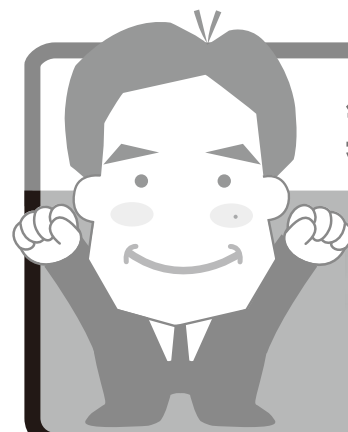
まさか、こんな夢物語が、ほんとうに私が生きているうちに実現するとは……。

倉田市長さんは、若いけど、すごく実行力のある市長さんですね。ただ、私ら年寄りにしたら田舎っぽい箕面も好きやし、農地は残してほしいなあ……。倉田市長さんは農地を残すって言うてはるし、緑がいっぱいあることが箕面の魅力やし、実行力のあ

る市長さんやから、きついろいろ考えてはると思うので、本当にがんばってほしいと思います。

船場にもなんか凄いもんができるみたいやし、子や孫の世代のことを考えると、やっぱり便利になってええやろなあ〜って思います。2020年の新駅からの始発電車で絶対に乗りたくて、健康でいられるよう、滝道ウォーキングやラジオ体操を続けていきますわ。

(如意谷三丁目 77歳 女性)



箕面市長倉田哲郎 まちづくりニュース

“箕面のチカラ”

2014年4月号

倉田哲郎後援会 Fax 06-7635-7195

倉田市政が誕生して6年目。この間の数々の新しい政策や倉田市政の実績を、倉田哲郎後援会として少しでもお伝えしたいと思います。

未来への確かな布石 北急延伸!

市民の皆さまからご信託をいただき、箕面市政をお預かりしてから、早いものでもうすぐ6年になるうとしています。

この間、一貫して取り組んできたのが、「財政危機の打破」と「未来への投資」の両立です。5年前、過去最悪となっていた経常赤字は、職員給与の削減や事務事業の大胆な見直しなど徹底的な行財政改革により大きく体質改善し、完全黒字を達成しました。

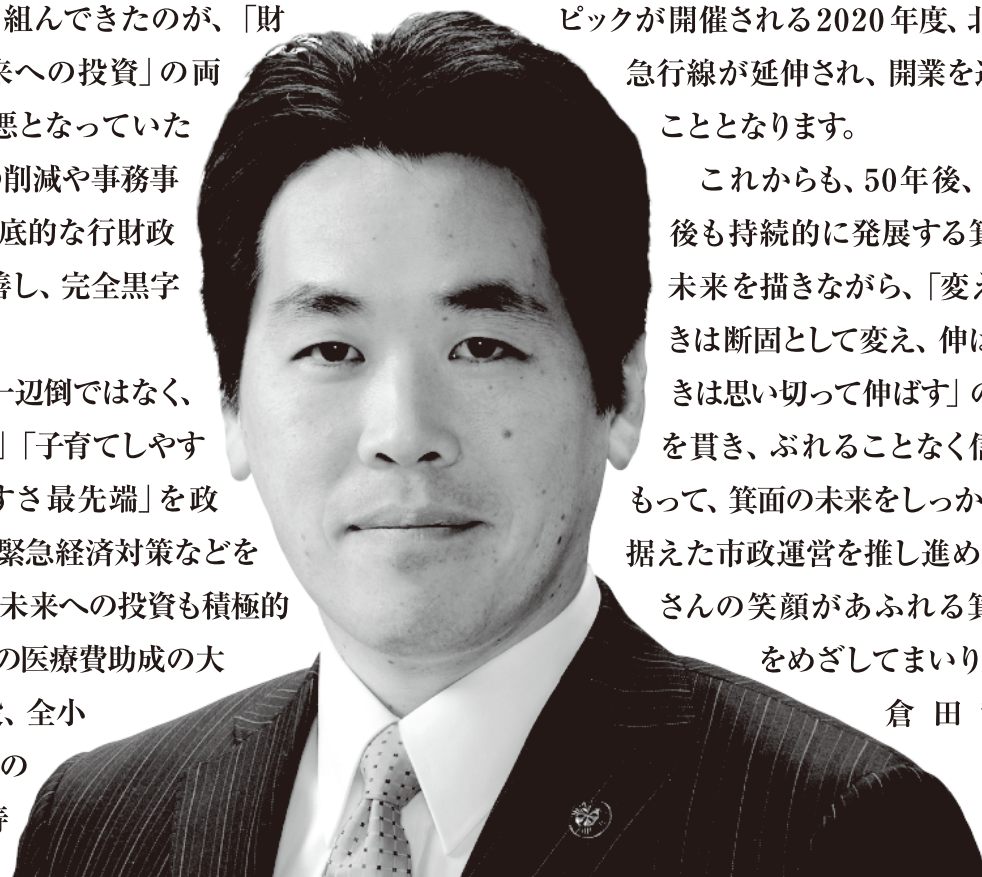
その一方で、緊縮財政一辺倒ではなく、「安心・支えあい最優先」「子育てしやすい日本」「緑・住みやすさ最先端」を政策の3本柱に据え、国の緊急経済対策などを最大限に活用しながら、未来への投資も積極的に行ってきました。子どもの医療費助成の大幅拡大や、保育所の増設、全小中学校の耐震化、高齢者の憩いの場となる新・松寿

荘(多世代交流センター)をはじめとする公共施設の整備などが、その一例です。

そして箕面市のまちづくり最大の政策課題である「北大阪急行線の延伸」につきましても、皆さまの力強いご支援をいただきながら、大きなハードルを一つひとつ乗り越え、ついに本年、延伸実現を決めることができました。くしくも、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年度、北大阪急行線が延伸され、開業を迎えることとなります。

これからも、50年後、100年後も持続的に発展する箕面の未来を描きながら、「変えるべきは断固として変え、伸ばすべきは思い切って伸ばす」の姿勢を貫き、ぶれることなく信念をもって、箕面の未来をしっかりと見据えた市政運営を推し進め、たくさん笑顔があふれる箕面市をめざしてまいります。

倉田哲郎



倉田哲郎さんのブログ

39歳の日記

検索

ツイッター(つぶやき)へも、ココから!

携帯電話でも見られます http://mobile.kurata.tv/



39歳の日記—箕面市長 倉田哲郎ブログ

<http://blog.kurata.tv/>

箕面の未来に向けて挑戦し続ける倉田哲郎市長の行動の軌跡を綴ったブログです。

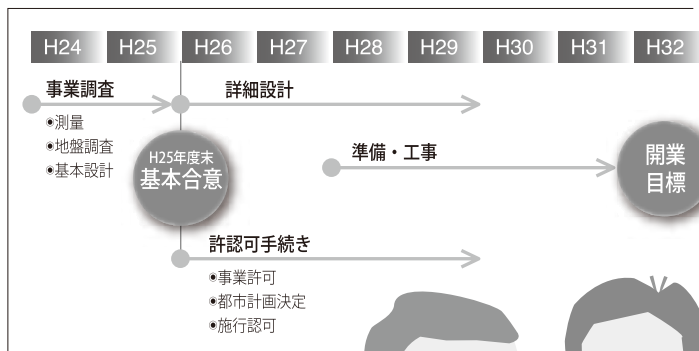
みのおの将来へ
大きな一手

北 大 阪 急 行 の 延 伸 が 実 現 へ !

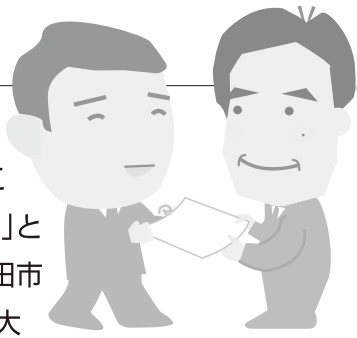


2020年度の開業に合意!

倉田哲郎市長が、歴史に残る大きな仕事をやってきました。新聞各紙で報道され、すでにご承知の皆さんも多いと思いますが、去る平成26年3月31日、大阪府、阪急電鉄(株)、北大阪急行電鉄(株)と箕面市が、ついに「北大阪急行線の延伸」の事業化に合意し、2020年度の開通を決める「基本合意書」に調印しました。



半世紀近く前、箕面市の総合計画に書き起こされたこの事業。ほとんど「都市伝説」と化した感がありましたが、倉田市長は5年前の市長選挙で北大阪急行線の延伸を公約にかかげ果敢にアタック。若さと行動力、明確なビジョンと戦略をもってこの5年間を突っ走ってきました。その行動力が実を結び、ねばりにねばって獲得できた鉄道延伸です。倉田市長自身が「遠く長い道のりと感じた」と語るとおり、大変な困難を乗り越えての合意であったことは想像に難くありません。

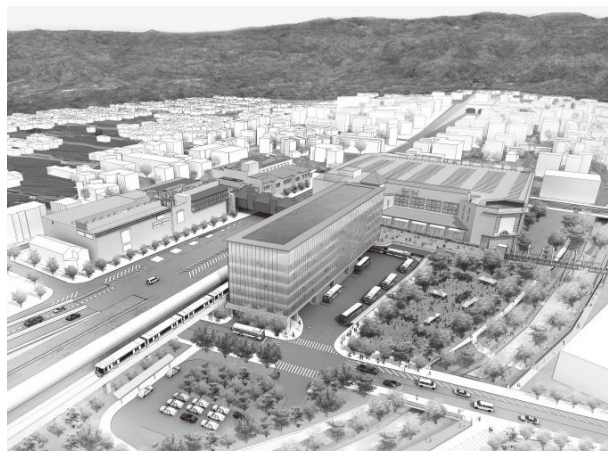


転機は、国に認めさせた大幅な財政支援!

転機は平成22年に訪れました。当時の政権が創設した「社会資本整備総合交付金」に着目し、倉田哲郎市長はこの交付金を活用するまったく新しい仕組みの事業計画を国に提案しました。

その後、2年にわたる関係省庁との協議の結果、全国で初となる「社会資本整備総合交付金を活用した鉄道整備」が可能となり、国の補助額を従来の1.5倍以上に拡大することに成功しました。この国の支援の獲得により鉄道事業の採算性が格段に向上し、一気に事業が具体化に向かって走り出しました。

倉田市長は、市議会の質疑のなかでも当時を振り返り、ねばり強く国と交渉した市の担当職員へ最大限の賛辞を贈るとともに感謝の気持ちを語っています。部下を大切に倉田市長の人がらが垣間見えた瞬間でした。



新箕面駅イメージ

税金を使わずに鉄道延伸を実現!

鉄道延伸にかかる総事業費は650億円。このうち箕面市の負担は185億円とのこと。箕面市にとっては大きな負担ですが、市の財政は大丈夫なのでしょうか。この疑問に対しても、倉田哲郎市長は明確な答えを用意してくれました。

箕面市には大きな自主財源として、住之江ポートレースによる競艇事業収入があります。倉田市長はこの自主財源を最大限に活用することとし、185億円の取り扱いについて、これまでに貯蓄してきた北急基金65億円を充てるほかは、残りすべてを競艇事業収入によってまかない、税金を使わずに鉄道延伸を完遂する財政支出ルールを構築しました。そして、このルールを明記した「財政基本条例」まで制定し、箕面市が将来にわたって健全財政を続ける仕組みをつくりあげたのです。

こうした仕組みが可能になったのは、倉田市長が就任以来取り組んだ行財政改革で「10年ぶりの完全黒字決算(平成24年度)」を達成し、競艇事業収入に依存しない箕面市財政をこの5年間で実現してきたことが背景にあります。

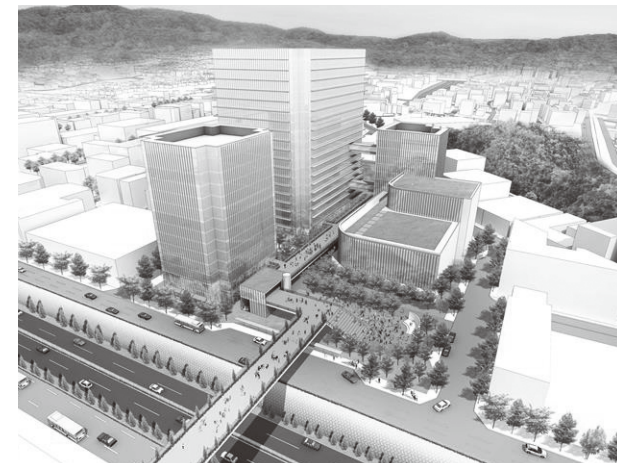
「子ども達の未来に負担を先送りしない」という財政運営にこだわり、税金を使わずに鉄道延伸を実現しつつ、それらを「制度」や「仕組み」に位置づけてしまう倉田市長の手法や考え方には改めて感心させられます。



箕面市は、鉄道の運営リスクを負わない!

鉄道延伸と聞いて、もうひとつ気になるのは「将来の鉄道の運営リスク」です。初期投資185億円の負担については、税金を使わず競艇事業収入を充てるということですが、開業後、想定どおりの乗客がなければどうなるのでしょうか。「思ったほど乗客が増えず、採算がとれない」などということはないのでしょうか。

こんな疑問にも倉田哲郎市長は明確に答えられました。先ごろ締結された「基本合意書」にリスク分担の考え方が明記されており、鉄道の運営リスクは、すべて運行する北大阪急行電鉄(株)が負うことになっています。これも「倉田市長のこだわり」のひとつでした。



箕面船場駅イメージ

○地下鉄御堂筋線って?

鉄道延伸により箕面市に直結されるのは「地下鉄御堂筋線」。実はこの地下鉄、そんなところの路線ではないことをご存知でしょうか? 大阪の地下鉄「第二号線」である地下鉄御堂筋線は、日本の地下鉄で最も利用者が多い区間を擁する大阪都心部の大動脈。公営地下鉄として全国で最大規模の黒字をたたき出した一路線で大阪市営地下鉄の全体収益の4割以上を占めるという「モンスター路線」なのです。大阪の地下鉄「第二号線」に、新大阪や梅田、本町、難波など、大阪のすべての主要駅を本でつなぎ大阪を縦断するこのスーパー路線に箕面市がダイレクトアクセスするメリットは計り知れません。

○バスも便利! 自転車も便利!

市街地の真ん中にできる新箕面駅にバスターミナルが整備され、バス路線網が再編されることにより、箕面市の積年の課題であった東西方向の移動の困難性が解消し、公共交通の利便性が格段に向上します。さらには、2つの駅の設定により、駅まで徒歩や自転車で行けるエリアが大幅に増え、市街地の大部分が「徒歩圏・自転車圏」に含まれることとなります。

○倉田哲郎市長の「こだわりポイント」

① 鉄道延伸後も 貴重な農地を守り続ける!

新箕面駅ができる菅野地域は、市街地に貴重な農地が残る緑豊かなエリアです。倉田哲郎市長は、新駅ができてからもこの豊かな農地を守り続ける決意で、昨年4月、農地を守る箕面市独自の取り組み「農業公社」を発足させました。農業公社は、農業経営の支援のほか、市内の遊休農地の約3割を借り受けて農地を再生し、自ら耕作するとともに、箕面産野菜を学校給食に供給します。昨秋からは、すでに中学校給食の地産地消率を20%まで高めることに成功しており、子どもたちは箕面の田畑で育った野菜を食べ、それが農家の皆さんの農業を支えるという好サイクルが動き出しています。

② 船場には新御堂筋(R423)を またぐ歩行者デッキ!

千里中央駅との位置関係から、「箕面船場駅」は新御堂筋(R423)の東側にできます。この新駅周辺では、大阪大学や企業と市が連携し、保健医療やスポーツなどの健康機能と公共ホールなどの文化機能を備えた複合施設を整備することによって、まち全体のリノベーションをめざすのです。一方、新御堂筋(R423)の西側にはすでに住宅地が広がっており、駅へのアクセスしやすさはとても重要です。倉田哲郎市長は、住宅地から駅を安全で便利に利用できるよう、新御堂筋(R423)を大きく東西にまたぐ、2階レベルの歩行者デッキを計画しています。横断距離が長く大変な工事になりそうですが、ぜひ実現してほしいと思います。鉄道延伸により船場の街が大きく変わります。